

平成28年度鍼灸等研究費研究成果 要約

<p>研究課題名</p>	<p>ドライマウス患者の生活向上に役立つ鍼刺激の効果 —唾液量および唾液中抗菌タンパクに着目して—</p>
<p>班長 氏名/所属機関</p>	<p>花岡裕吉 / 筑波大学</p>
<p>班員 氏名/所属機関</p>	<p>宮本俊和/ 筑波大学 渡部厚一/ 筑波大学 清水和弘/ 日本スポーツ科学センター</p>
<p>成果</p>	
<p>1. 目的</p>	<p>本研究では鍼刺激が健常成人男性の唾液量および唾液中抗菌タンパクに及ぼす影響を検討すること</p>
<p>2. 内容</p>	<p>対象：健常成人男性8名(25.0 ± 0.5歳)を対象とし、クロスオーバー法を用いて鍼刺激を行う鍼刺激実験と鍼刺激を行わないコントロール実験を行った。</p> <p>方法：鍼刺激方法は、左右の頬車穴に置鍼術を15分間行い、0分、8分、15分に雀啄術を加えた。唾液は介入前後に採取し、採取した唾液は重量(唾液量)を測定した後、酵素免疫測定法を用いて、分泌型免疫グロブリンA(SIgA)濃度(μg/ml)とhuman beta defensin 2(hBD2)濃度(pg/ml)を測定した。</p>
<p>3. 成果/考察</p>	<p>唾液量(p = 0.07)とhBD2濃度については鍼刺激実験およびコントロール実験ともに有意な変化はみられなかったが、SIgA濃度については鍼刺激実験において有意な増加がみられた(p < 0.05)。SIgA分泌は交感神経の影響を受けることが報告されており、本研究では雀啄刺激が交感神経に影響を及ぼしSIgA分泌を促したことが考えられた。</p>